

ひと花新聞

第88号

令和3年2月5日
 発行・NPO法人釜ヶ崎支援機構
 ひと花センター
 〒557-0002
 大阪市西成区太子1-13-15
 電話・06-6649-7800

山路来て うべいすさがし すがたなし 岡本太郎

鬼退治 職質受けて マイナンバー 一平

お母の 還暦祝う あかぎれか 政

昨年、今頃にウイルスの感染が
 が始まって一年が過ぎました。
 地震や火山爆発等もいつ起き
 るか判りません。ウイルスの終結は
 予想もつきません。ひと花の予定
 表も閉所状態です。火、土曜日
 に天下茶屋の水やりに行き行っ
 ています。今高の回りの枯れ葉も
 夕べのボイ捨て等気になります
 が一人では動くことも出来ません
 早く開所して皆な元気な又
 活動できるように待機しています
 たなべ



令和船 さまよう海に 雪がふる。。。。

Near, far, whatever you are
 I believe that the heart does go on



Once more you open the door
 And you're here in my heart
 And my heart will go on and on



私のおもいで
 今年一通の年賀状に私は昨年
 7月に結婚しましたと書いてありました
 彼女は前々も花センターにイベントで
 来ていました。皆んなピークマン（千夏）
 と呼んでいました。皆んなの人気者
 でした。いろんなプログラムにも参加
 してとても明るいい人でした。おととし
 私がおと花に行ったら一人の女性
 がおわつてました。スタッフが昔おと花
 に来た人だと云ってたので顔を見
 るとおと花の思い出がよみがえり
 ました。ピークマンも懐かしと云って
 私の事覚えてくれてました。昔話に
 花が咲きもよりました。その時、おと
 花現われない人でもよりました。
 5年たってもおと花を忘れずおと花
 てくれるなんて本当にありがたいです。
 とおと花世にあってほしいと思つてます。
 又おと花が来たら行きたいと思つて
 ました。会えたら嬉しいと思つてます。
 とくせん。



コツコツ続けることで
 大きな絵が見えてくる...
 貼り絵は人生ですね。



1/13日また緊急事態宣言が厳しい
 日々が続いています。自粛生活
 コロナ疲れはもういやと言う感じです。
 ひと花センターも2/7日まで中止。
 気持ち的に落ち着かず寂しい限りです。
 変異型ウイルスってこわいですね。
 これから先どうなるんでしょう？
 それに加えて今年は寒波が厳しい
 ですね。じつと我慢するしかないです。
 収束の糸口が見えない限り心の
 とやまが晴れません。
 でも負けたらあかんで〜と自分の心に
 言い聞かせています。
 弱気になつたら負けです。健康と笑顔
 で頑張りつぎやないと思っています。
 必ず収束の時が来ると信じています。
 今日1日と精一杯たのしく生きよう。 政

うべいすは 感染知らず ホーホケキョ
 なべさん
 数珠つなぎ 救出待ちの 大寒波 一平
 子猫ねこ すべつて転ぶ 薄氷 政

さむざらに アルミカン見る てき多し 岡本太郎

梅一輪 こげやにさして においみる 岡本太郎

(迷路にハマるとはほ.)
 新型コロナウィルス感染者が確認されてから、はや一年が
 過ぎても、歯止めはかからず 感染者は増え続け
 政府の対策も、びびり、のんびりかまえていた。
 国会も、ようやく召集されても、どうなることか?
 大阪も感染者は500人前後で高留りして
 コロナ禍の中で 皆が迷路の中に 迷い込んで
 此からの生活は、どうなるのだろうか?
 皆が 迷路の中でもかき苦しんでいる……
 ひと花センターも、高齢者ばかりだから
 コロナウィルスに感染しない様に充分注意して、
 皆が元気に逢える様にかんげりましよう。
 ここで一句
 コロナ禍や、光もとめて、迷い道。
 (一平)



緊急事態宣言で、
ひと花もひっそり気味。
コロナに気を付けて
みんな元気に
すごしています。



花の水やり 参加者募集



私のよもやま話
 今回も、子ども頃の話ですが、昭和27~28年頃は、終戦直後で田舎の方は、
 どこも皆、貧しくて、子供に菓子や煎餅のおやつは、ありません。小学五年生
 位になると、学校から帰って日が暮れるまで、何か、仕事をやらされる毎日
 でした。私の日課は、牛の餌の草刈りでした。牛の世話をしている時に牛小屋
 の、土壁がいつも、濡れているので父親に聞いたら、牛の、シオンベンじゃ。
 でも、いつも、土壁を舐めているので、側に行くと、いい匂いがして、牛の尿は
 こんなもんかと思って、いました。ある時に、牛小屋の裏の板塀の、間にある
 すき間にミツバチが居たので、覗いてみると、大きな、ミツバチの巣を見つけ
 よく見ると、巣の下から蜜が流れて居たので、粉ミルクの缶を、置いて置くと
 あくる日は、半分位蜜が、溜まっていて、割り箸に巻き付け舐めると、めっちゃ
 美味し。母親や姉が、お前いい匂いがする。何か、食うたやろ。いや知らん!
 次の日も、次の日も、いや知らん! 友達も、お前、甘い匂いがする。ある日
 板塀の間に、首を突っ込んで蜜を取り、ひよっと顔を挙げると、母親や姉、妹
 全員で、立っていた。後を付けていたらしい。皆、笑っていました。
 後に、父親が、蜜蜂の箱を作り、近所に、配っていた、思い出があります
 いま思えば、あの頃が一番幸せでした。 桐井でした。



今工 清掃 寒いけど がんばる



昭和は遠くなりにけり(A)
 立教大学の長崎と杉浦は
 巨人と南海に入団し、昭和33年
 テビィから活躍し、セとパの
 新人王に輝いた。翌34年
 杉浦は公式戦で投手4度の
 驚異的成績を残し、南海は
 心リグ優勝セリグ巨人との
 日本シリーズに挑んだ。南海は
 日本シリーズで何をやっても巨人
 に勝てず、監督の鶴岡にとって
 は悲願ともいった。鶴岡は公
 式戦で使った杉浦を愛用さ
 したが、鶴岡の思いを察した杉浦
 は自ら進んでマウンドに登った。
 なんど杉浦は巨人相手に4連投
 4連勝その気遣いされる投球で
 鶴岡有難きは悲願を達成した。
 シリカは後年、杉浦の球を受けて
 いた野村捕手はびっくりした。ボル
 に血かじんでいた。明らかに故障
 していた。それで杉浦は投球に
 した。そして巨人に4勝0敗
 60年残り大坂の鶴岡は後々の
 杉浦も其前の遺言で自身を
 六人誰かに贈って貰った。



境内の 苔むす古木 梅五輪 一平

野焼みて 心遙かに 大和路へ 一平 花つぼみ うぐいす歌い 春を告げ 政

※ひと花センターでは新規登録者を募集しています。高齢で生活保護受給の独り住いの方が対象です。詳しくはひと花センターまで。